

拠点名称：全世代対応型遠隔メンタルヘルスケアシステム(KOKOROBO-J)によるメンタルヘルスプラットフォームの開発・社会実装拠点

代表機関	国立精神・神経医療研究センター	プロジェクトリーダー	竹田 和良 国立精神・神経医療研究センター 病院 臨床研究・教育研修部門 情報管理・解析部 室長
参画機関	九州大学、鳥取大学、大阪公立大学、京都大学、名古屋大学、杏林大学、慶應義塾大学、東京大学、横浜市立大学、千葉大学、東北大学 第一生命保険株式会社、株式会社QOLeap、サスメド株式会社、株式会社テックドクター、株式会社アクセライト、メンタルケア協議会、東京メンタルヘルス・スクエア		

プロジェクトの概要

ウィズ・ポストコロナにおいて、メンタル不調の予防はもとより、将来のウェルビーイングにも影響する、思春期を主とした若年者のメンタルヘルスへの対応は喫緊の課題である。

本拠点では、児童・思春期から成人までのライフコースを通じて、メンタル不調の予防、メンタル不調者の早期手当、必要な人への医療への橋渡しを行う、いつでもどこでも誰でもアクセス可能な全世代対応型遠隔メンタルヘルスケアシステム(KOKOROBO-J)を開発し、モデル地域/学校で実証し、全国実装する。KOKOROBO-Jを入口に、同世代やピアサポーターとの交流、地域支援者への相談アクセス等を一元化したメンタルヘルスプラットフォームを構築し、メンタルヘルスケアが当たり前の社会を醸成する。

また、児童・思春期から成人までの個々のライフステージを俯瞰したライフコースデータ基盤を構築し、リスク予測因子や介入予防法の開発はもとより、メンタル・ウェルビーイングの高い人生を実現し、健康寿命の延伸を図る。

